

特定非営利活動法人 ハナラボ 活動報告2013



活動の目的

女子学生が実在の社会課題の解決に挑むという経験を通じて、自分らしいリーダーシップと課題解決の手法を身につけることを目指しています。将来的には社会人女性も含めたプロジェクトを実施し、社会変革の担い手を輩出することを目指します。

プロジェクトは、課題を抱える自治体、課題を解決したいと考える企業、そして女子学生が協働しながら進めていきます。女子学生の共感力を活かしたヒアリングを通じた現状分析、課題発見、アイデア発想、シナリオ化プレゼンテーションのワークショップを実施し、最終的には地域課題ひいては日本社会全体の課題の解決に繋がるアイデアを提案します。さらに、そのアイデアの事業化を目指して活動します。また、多様な人々が集い対話しながら、課題解決について考え行動を起こすための空間をつくり、市民に提供します。

団体名	特定非営利活動法人ハナラボ
所在地	〒164-0013 東京都中野区弥生町2-41-17
設立日	2012年4月5日
代表理事	角 めぐみ (すみめぐみ)
常務理事	浜島裕作 (はまじま ゆうさく)
事業内容	<ul style="list-style-type: none">● 社会課題を解決するためのワークショップの運営事業● 社会課題を解決するためのアイデア実用化事業● キャリア教育及び生涯学習の研究・開発・実施事業



2013年度 活動実績 ①

神奈川県横浜市 ヨコハマ ハコ入りムスメ プロジェクト

港の見える丘公園に佇む、大佛次郎記念館。1978年の開館から最初の10年間は来館者数が10万人を超えていました。しかし、2012年度は1万5000人ほどに減少。若い世代の来館が減少していることから、若い世代自身に活性化のアイデアを考えてほしいと、ハナラボに声がかかりました。15名の女子大生が集まり、「大佛次郎スピリットを次世代に伝え、記念館が地域とつながり市民と協働する」のアイデアを提案。半年間かけて、実際に4つのアイデアを実行、制作しました。 共催：横浜市 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団



社会課題解決に繋がるアプリアイデアワークショップ

Digital Youth Collegeにて、女子学生向けのワークショップの設計・ファシリテーションを担当しました。「地域の防災」「障害者の働き方」「高齢者と医療」をテーマに「社会貢献できるアプリ」を企画するプログラムです。女子中学生、高校生、大学生が参加しました。前半は、課題解決に取り組む方から実際に起きている問題や課題を学びます。後半は、グループにわかれ課題を解決するタブレット・アプリの企画をつくりました。 主催：ウィンドウズ デジタル ライフスタイル コンソーシアム 共催：日本マイクロソフト株式会社



ハナラボトークセッション

何らかの社会課題に取り組む方をゲストにお招きし、女子大生と女性社会人が「社会の未来」や「自分自身の未来」について考えるトークセッション。これまで延べ300人以上の方が参加している、人気のプログラムです。今年度は、農村と都市を繋ぐ映像を制作する「PVプロボノ」の新井博子さん、伝統工芸の継承に取り組むKARAFURUの黒田幸さんをお招きして開催します。社会課題について知るだけではなく、女子大生や女性社会人のコミュニティを醸成し、互いに支えあう関係性を育むことも目的の一つとなっています。



2013年度 活動実績 ②

大学等での講演

- 東京女子大学
- 滋賀大学
- 横浜国立大学
- 光産業創成大学院大学
- 女子大学研究会(大学行政管理学会)
- ソーシャルベンチャーパートナーズ東京 ほか



ハナラボの特徴

女子大生×デザイン思考

ハナラボではデザイン思考を用いて、アイデアを形にしていきます。デザイン思考とはイノベーションを生むための思考法で、現場での体験やインタビューを通じて、①共感、②問題定義、③創造、④プロトタイプ、⑤テストのプロセスで構成されています。人間中心デザインとも言われています。未来が描きにくく、価値観が多様化した時代には、過去のデータから解決策を導くのが困難。そのため、デザイン思考が注目されているのです。

様々な活動を通して見えてきた、女子大生の特徴「思わず共感してしまう力」「自由に発想を広げる力」「すぐに変化できる柔軟性」が発揮できる思考法といえます。ハナラボでは女子大生向けにオリジナルツールを作成しています。

女子大生から市民協働へ

アイデアが生まれても、実行されないケースが多いという現状があります。実行する人がいなかったり、しがらみが多く挑戦を諦めてしまうことが理由です。ハナラボでは、アイデアを生み出すだけでなく実行まで行います。女子大生は地域とのしがらみがなく、中立的。だからこそ、市民の協力が得られやすいのです。その結果、市民を巻き込んだプロジェクトとなるのです。



役員

役員

角めぐみ（代表理事／インディ株式会社 代表取締役）
浜島裕作（常務理事／インディ株式会社 取締役）
岩井秀樹（株式会社キュムラス・インスティテュート 代表取締役）
江頭説子（東京女子大学女性研究者支援室）
寛裕介（issue+designプロジェクト代表）
清水恒平（オフィスナイス代表／武蔵野美術大学専任講師）
中並沙緒理（卒業生代表）
監事：若山理子（公認会計士）



アドバイザー

西村勇也（NPO法人ミラツク 代表理事）
野村恭彦（株式会社フューチャーセッションズ 代表取締役）

代表理事 角めぐみ

東京女子大学在学中に女性学の授業を受け「女性が働くこと」について強い問題意識を持つ。IT企業にてWebの企画制作の仕事に携わる。個人事業として独立後、武蔵野美術大学にてコミュニケーションデザインを学ぶ。2007年から武蔵野美術大学にて「マルチメディア表現」講師。

2007年にインディ株式会社を設立。「女子学生が自分の可能性を広げ、勇気を持って一步踏み出すこと」を応援するため「女子学生ための就活応援サイト ハナジョブ」を立ち上げる。女子学生とともに取材活動や「学生と社会人の女子会（ワールドカフェ）などを運営。女子学生の能力を伸ばし活躍できる場を作り、社会変革の担い手を輩出したいと、女子学生が社会課題を解決するプロジェクト「ハナジョブ・イノベーションラボ」を開始。2012年にNPO法人ハナラボを設立した。



メディア掲載



<http://fin.der.jp/2012/11/hanalab1/>

設立趣旨書

「社会変革の担い手を輩出する」

これがハナラボの目指すこと。何かが変わるとき、必ず最初に一步を踏み出して道を切り拓いた人がいます。ハナラボは、その一步を踏み出す人を増やしたいと考えています。

最初に、社会変革の担い手となるのは女子学生たちです。彼女たちの強みは、共感力、発想力、ネットワーキング力。でも、彼女たちの能力を伸ばす場所も機会も殆どありません。それどころか、そういった女性の強みはビジネス社会では受け入れにくいものとして認識されています。しかし、価値観が多様化した現在、彼女たちの力は、日本のビジネスを変える大きな力になるのだと確信しています。

日本では、これまで女性の生涯を通じたキャリア形成について考えられてきませんでした。その結果、出産を機に退職する人は6割を超えています。最近では仕事をする女性は増えていますが、多くは非正規雇用であり、十分に能力を発揮できる環境ではありません。それは、本人にとっても、社会にとっても大きな損失だと言えるでしょう。

ハナラボでは、実在の社会課題の解決に挑むという経験を通じて、自分で道を切り拓くマインドと手法を身につけることを目指しています。プロジェクトは、課題を抱える自治体、課題を解決したいと考える企業、そして女子学生が協働しながら進めていきます。女子学生の共感力を活かしたヒアリングを通じた現状分析、課題発見、アイデア発想、シナリオ化プレゼンテーションのワークショップを実施し、最終的には地域課題ひいては日本社会全体の課題の解決に繋がるアイデアを提案します。さらに、そのアイデアの事業化を目指して活動します。また、多様な人々が集い対話しながら、課題解決について考え行動を起こすための空間をつくり、市民に提供します。

プロジェクトを通して、女子学生が社会変革の担い手として育ち、自分の所属する組織や地域で新しい道を切り拓く存在になってほしいと思っています。将来的には女子学生だけでなく、社会人女性も含めたプロジェクトを実施し、社会変革の担い手を輩出することを目指します。

広く一般市民が参加し、より多くの社会変革の担い手を輩出するため、ここに特定非営利活動法人ハナラボを設立することを宣言します。

2011年11月13日

特定非営利活動法人ハナラボ 代表 角めぐみ

お問い合わせ

どうぞお気軽にお問い合わせくださいませ。

特定非営利活動法人ハナラボ

03-6658-4418 <http://hanalabs.net>

東京都墨田区本所3-15-5

ソーシャルインキュベーションオフィスSUMIDA 304

担当:角 めぐみ

e-mail sumi@hanalabs.net

twitter [hana_tweets](#)

fb [megumi sumi](#)

担当:浜島 裕作

e-mail hamajima@@hanalabs.net

twitter [yusaku_h](#)

fb [yusaku hamajima](#)